

# 日韓の言動様式の違いと精神文化についての考察

李 文相

## 目 次

- I. はじめに
  - II. 日韓の言語使用習慣と精神文化
    - 1. 言語使用習慣の違い
    - 2. 言語に関連したことわざの比較
  - III. 日韓の行動習慣と精神文化
    - 1. 行動習慣の違い
    - 2. 日常生活に関連したことわざの比較
  - IV. おわりに
- 注
- 参考文献
- (附録：アンケート)

## Abstract

In this thesis, I have examined some proverbs to understand the spiritual culture difference between Japan and South Korea. It might be one point to consider in the comparison of the two countries. The difference between emotion and sensibility can be found in the speech and behavior style based on Japan-South Korea exchange. It is necessary to compare the South Korea style and the Japanese style with each other. When the Japan-South Korea exchange of individuals or small groups is deepened, it is understood that each party's language and customs are quite different.

However, occasional misunderstanding and distortion during an exchange made with good intentions might be understood from a feeling for the different cultures; and therefore, lack of such feeling may cause an unexpected obstacle to the exchange. When such a risk is considered, difference in the spiritual culture lurks in both countries.

The concept of "Harmony" in indirect expressions is basic in the Japanese language and is enshrouded with the concept of "Affection" in direct expressions in the South Korean language.

In this thesis, a questionnaire survey was completed by university students and general Japanese and South Korean people to confirm the difference of such a spiritual culture.

**Key words : Speech and behavior style, Harmony, emotion, proverb, spiritual culture**

## I. はじめに

日韓両国は韓流と日流の旋風がそれぞれ競い合うように盛んである。多くの人々が相互訪問をし、様々な形での交流が活発に続いている。

交流が深まれば、お互いの意識の中に相手の国の文化を理解する必要性が高まるものと考えられるが、それは、人が相手の言語や習慣として表れる事象が自分と違うことを発見したときにその異文化を理解したように感じてしまうことをも含んでいる。そして、ときには誤解や善意による曲解が生じてこれを正しく認識できずに、その結果、交流に思わぬ支障をきたしてしまうことがあり得る。

こうした危険性を日韓に限って考察してみると、両国(人)に潜んでいる精神文化の違いを理解していない場合が多いと思われる。その根底には、日本では間接的な表現を中心にした「和」の概念が働いており、韓国では直接的な表現を中心に「情」の概念が潜んでいることが挙げられよう。<sup>i</sup>

このことは、日韓両国のことわざを比較すると理解しやすい。例えば、日本の「蓼食う虫も好き好き」と韓国の「제 눈에 안경(自分の目に合った眼鏡)」、日本の「夫婦喧嘩は犬も食わない」と韓国の「부부싸움은 칼로 물 베기(夫婦喧嘩は包丁で水を切る)」などを比較してみると、日本では人間の行為を虫や動物の行動に置き換えて間接的に表現しているが、これに対して韓国では、人間が使う道具を登場させて人間の行動を直接的に表現しようとしている。

本稿は、韓国で生まれ育った筆者がこれまで関わってきた日韓交流の体験をもとに、日本の「和」の概念と韓国の「情」の概念とを具体的に明らかにするために、両国人の言動様式の中に潜む精神文化の違いを考究したものである。合わせて、日韓両国(人)の情緒や感性の違いを知る上で有効と思われる日韓ことわざ比較表を載せた。

## II. 日韓の言語使用習慣と精神文化

### 1. 言語使用習慣の違い

次の表は日本人と韓国人の日常言語習慣や行動様式の違いを八項目に分け、これを比較できるようにした「日本人と韓国人の言動様式比較表」(以下、「日韓言動比較表」と記す)である。

日韓言動比較表

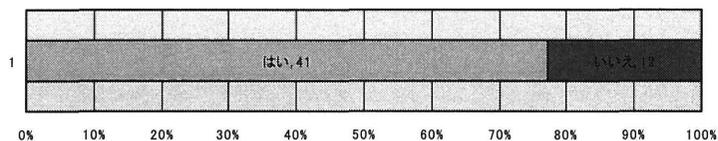
日本人	韓国人
①遠慮して自分の意見をはっきり言わない →考えが伝わってこない	①遠慮なく自分の意見をはっきり言う →自己主張が多い
②本音と建前の使い分けが多く、本心を計りかねる	②率直な言い方をし、本心が伝わる
③儀礼的な言い方が多く、相槌を多用する →「すみません」、「おかげさまで」、「どうも」を度々使う	③儀礼的な言い方が少なく、相槌を多用しない →謝礼のことばは一度だけ言う
④親しい友人間でも相手の領域に入らない →人間関係が淡泊	④親しい友人間では物・心を共有する →人間関係が濃厚
⑤割り勘の習慣が定着している →端数まできっちり計算	⑤目上の人や金のある人が支払うか、多く負担する →割り勘の場合は大雑把
⑥見知らぬ人にも笑顔で接し、親切	⑥見知らぬ人には不親切で無愛想
⑦お年寄りが若者に威張らない →若者に対しても敬意を表する人が多い	⑦お年寄りが若者に威張る（社会通念） →若者より自分が偉いと思う人が多い
⑧協調的で他人への迷惑に敏感 →自分が目立たないように振舞う	⑧自己中心的で他人の迷惑に鈍感 →自分が目立つように振舞う

上の「日韓言動比較表」に客観性を持たせるために、日本人と韓国人の社会人及び大学生を対象に 2006 年 8～11 月にアンケート調査を実施した。その結果は以下の通りである。アンケートの対象者は日本では山口県内在住者、韓国ではソウル市内在住者を中心に、日本人 53 人（社会人 23 人、大学生 30 人）と、韓国人 57 人（社会人 19 人、大学生 38 人）であった（以下、その中の①～③は日本人と韓国人の言語習慣の調査結果）。

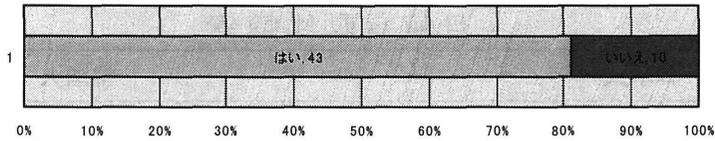
次のグラフの①～③は日本人の言語使用習慣についての調査結果である。

①遠慮して自分の意見をはっきり言わない。

→考えが伝わってこない。

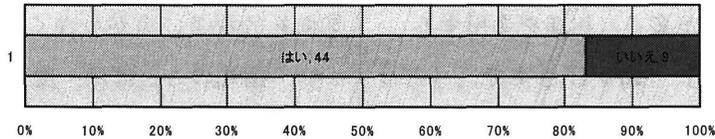


②本音と建前の使い分けが多く、本心を計りかねる。



③儀礼的な言い方が多く、相槌を多用する。

→「すみません」、「おかげさまで」、「どうも」を度々使う。



①～③は日本人が自分の気持ちを表すことを控えているスタイルである。何事も率直に言わないのは韓国人にとってわかりにくいものであるが、日本人同士では「阿吽の呼吸」の範疇であり、ほとんどの場合（約8割）違和感はない。

年齢や世代間、また地域により差はあるが、日本人は相対的に友人間でも自分を開けっぴろげに話すことはあまりしない。プライベートなことを話すと相手に迷惑が掛かると考えており、「迷惑をかけること」は「和を乱すこと」となるのである。はっきり言ってしまうと、相手に「迷惑がかかる」という思いがあるからである。

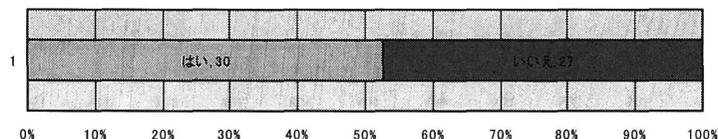
また、相手を傷つけたり当惑させたりすると紛争の種になって「和が乱れる」ことになり、「和を乱す人だ」と思われたくないのである。

そこで、はっきり言いたくないという言語行為が「ぼかし」的ないろんな表現を生み広まっている。例えば、次のような言語習慣等が定着している。

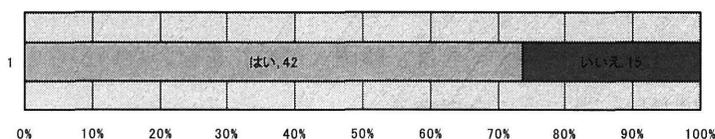
- ・～ほう（「時刻のほうは・・・）、～的には（ワタシ的には）、～とか弁（～コーヒーとか）
- ・話の途中、句切りの末尾音の「語尾上げコトバ」によって相手の反応を確認しながら話す。
- ・末尾音を下げて、「私って～じゃないですか」を連発し、聞き手との合意形成を意図する。
- ・黒か白かはっきり言いたくない場合に、「微妙～」をよく使う。

上の日本人の言語習慣に比べて韓国人の言語習慣は、相手とのコミュニケーションを積極的に試みようとしている。前表の①～③に対応する韓国人の言語習慣をみてみよう。

①遠慮なく自分の意見をはっきり言う。→自己主張が多い。

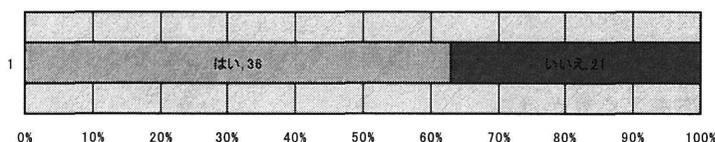


②率直な言い方をし、本心が伝わる。



③儀礼的な言い方が少なく、相槌を多用しない。

→謝礼のことばは一度だけ言う。



韓国人は相手に自分の家族や恋人など、プライベートなことを話すことが多い。それは相手に自分をより多く知ってもらうことによって相手との距離が縮まると思っているからである。また、自分のことを知ってもらうとともに相手のことも知りたいと願うので相手の家族やプライベートなことまでたずねたりする。

交流会などでは、韓国人は初対面であっても日本人から親切にされると心から親しくなりたいと願う。そして個人的な秘めごとや家族のこと、彼氏や彼女のことなどまでも話す。同様に相手にも個人的なことを話してくれることを望むのである。そうして相手と共有する部分が大きくなればそれだけ情が湧いてさらに濃密な人間関係へと発展すると思っているのである。韓国人にとって「親しい関係」とは、「互いに知り合っている部分が多い関係」なのである。

日本人はしかし、自分のことを話すよりは聞き手に回ることが多い。自分のことになると当たり障りのないことしか話さない場合が多いので、韓国人には日本人は「わかりにくい」、「信じられない」、「情が感じられない」というイメージが出来上がってしまう。

日本人の日常会話では、「どうも」、「おかげさまで」、「ありがとう」、「すみません」など儀礼的な言い方が多い。それは、対人関係を損ねないための潤滑油的な役割を果たしている。

しかし、本音で話すことを好む韓国人からすると、日本人の愛想のよさと儀礼的な言い方に最初は惚れ惚れするが、そのうちに失望してしまうケースが多いようである。心のままを直接的に表現する韓国人は、心の籠もった挨拶をしたいのである。

韓国人の多くは、儀礼的な謝礼や謝罪のことばを言うことに不慣れである。筆者自身の体験では、来日して間もない頃、いつも親切にしてくださる年配のおばあさんに、小旅行に行ったときの小さなお土産を差し上げたことがある。その人はその日もその翌日も、そしてまた数日後に顔を合わせたときにもご丁寧に「今朝ほどはありがとうございました!」、「昨日は・・・」、

「先日は・・・」と何度もお礼の言葉を聞かされて閉口してしまったことがある。この戸惑いは、ありがたい気持ちのときに軽くお礼の言葉を言うてしまうよりも、感謝の気持ちを胸に締まっておいてお返しができる日まで大切にしておきたいと思う韓国人との精神文化の違いによるものである。そこで、日本人が留意すべきは、韓国人がお礼を言わないからといって感謝していないということではない、ということである。

私が日本に来て最初に受けたカルチャーショックとでも言うべき日本人のお礼の習慣は、日本に滞在した経験のある韓国の若者たちの感想からも同様に窺える。

儀礼的な言い方とともに、日本人の相槌の頻度の多さは韓国人のそれに比べてずいぶん違うようだ。日本人は相手の意見に頷き、頻繁に相槌を打つことを忘れない。自分に特別不利益が掛かる話題でない限りでは、相手の意見に同調するかしないかにかかわらず、その場では多くの人が頷いている姿をよく見かける。

韓国人はどうかというと、同調できない場合にはすぐに反対の意思表示をすることが多い。たとえ同調できる話でも、韓国人は途中で頷いたり相槌を打ったりすることをあまりしない。様々な日韓両国の討論会に参加してみるとその違いが見えて面白い。

## 2. 言語に関連したことわざの比較

前の章では「日韓言動比較表」①～③の項目について日本人と韓国人の精神文化の違いを分析してきた。ここでは日韓の言語に関連した「ことわざ」を取り上げてみる。ことわざからは日韓両国(人)の言語様式の相違が浮き彫りになり、情緒や感性の違いから似て非なる精神文化の違いを知る手がかりとなろう。

なお、韓国のことわざについては直接的な表現が多く、そのまま日本語に訳すと日本語らしくない表現になる場合もあるが、あえて韓国的な雰囲気を知ってもらう意味からできるだけ直訳に徹した。

言語関連のことわざ比較表

日本のことわざ	韓国のことわざ	
悪事千里を走る	足のない言葉(馬)が千里を走る	말 없는 말이 천리간다
覆水盆に返らず	こぼした米は拾えても、こぼしたことは拾えない	쏟은 쌀은 주워 담을 수 있어도 쏟은 말은 주워 담을 수 없다
人の口に戸は立てられない	狭い口でしゃべったのを、広いチマ(スカート)でも包め	좁은 입으로 말하고 넓은 치맛자락으로 못 막는다

	ない	
	(・人の宴会に来て柿を供えろ梨を供えろ、という)	(・남의 잔치에 감나라 배나라 한다)
噂をすれば影	虎も自分のことを言うと現れる	호랑이도 제 말 하면 온다
売り言葉に買い言葉	話しかける言葉が良ければ返ってくる言葉も良い	가는 말이 고와야 오는 말도 곱다
壁に耳あり障子に目あり	昼の話は鳥が聞き、夜の話はねずみが聞く	낮말은 새가 듣고 밤말은 쥐가 듣는다
口は災いの門	虎の口より人間の口がもっと怖い	호랑이 입보다 사람 입이 더 무섭다
おくびにも出さない	息は吐き出しても、言葉は吐き出さぬ	숨은 내 쉬고 말은 내뱉지 마라
吐いた唾は呑めぬ	牛に言った話は広まらないが、妻に言った話は広まる	소더러 한 말은 안나도 처더러 한 말은 난다
触らぬ神に祟りなし	話多いと祟りも多い	말도 많고 탈도 많다
物も言いようで角が立つ	舌の下に斧をもっている (・笑わすつもりの言葉で葬式となる)	혀 아래에 도끼 들었다 (・웃느라 한 말에 초상난다)
	千両の借金も言葉で返す	천냥 빚도 말로 갚는다
	病魔は口から入り禍は口から出る	병은 입으로 들어가고 화는 입으로 나온다
言わぬが花	言葉は種となる	말이 씨가 된다
言わぬは言うに優る	言葉が言葉を生む	말이 말을 만든다
(・言わぬ言葉は言う百倍 ・沈黙は金、雄弁は銀)	湯気の出ないおこげ湯の方が熱い	김 안 나는 승녕이 더 뜨겁다
	言葉多いと使える言葉少なし	말이 많으면 쓸 말이 적다
	言葉は増え、餅は減る	말은 보태고 떡은 췌다
奥歯に衣を着せない	言葉は声に出してこそ、肉は嚙んでこそ味がある	말은 해야 맛있고 고기는 씹어야 맛이다

眉に唾をつける	唇に唾もつけず嘘を言う	입에 침도 안 바르고 거짓 말을 한다
阿吽の呼吸	(心それぞれ、言葉それぞれ) 以心伝心	(속 각각 말 각각) 이심전심

上記の言語関連のことわざは、ことばに気をつけるように諫める内容のものが日韓ともに多い。しかしながら、韓国語のことわざで「言葉は声に出してこそ、肉は噛んでこそ味がある」(말은 해야 맛있고 고기는 씹어야 맛이다) に対応することわざが日本語には見当たらなかった。これは、日本語の「奥歯に衣を着せない」に近いと思われるが、積極的に発言すべきだとする韓国語のそれとは違う。

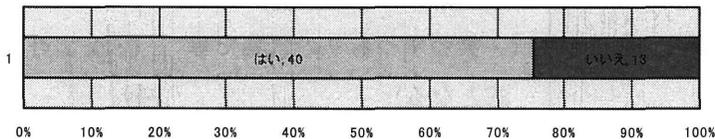
### III. 日韓の行動習慣と精神文化

#### 1. 行動習慣の違い

ここでは、「日韓言動比較表」④～⑧にしたがって両国(人)の行動習慣を取上げ、精神文化の違いをみていくことにする。

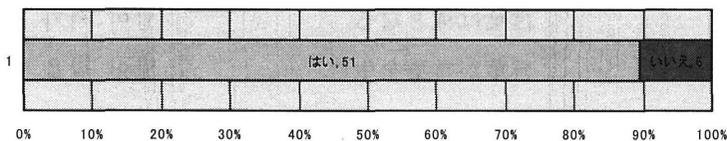
(日本人の場合)

④親しい友人間でも相手の領域に入らない。→人間関係が淡泊。



(韓国人の場合)

④親しい友人間では物・心を共有する。→人間関係が濃厚。



日本人の多くは、親しい間柄であっても一定の距離を保って付き合うことを好む。人がすれ違う時にも、一緒に並んで歩く時にも他人の身体に触れないように細心の気を使う。これに対し、韓国人の行動様式は全く違う。いくつか例をあげてみよう。

・女性同士はもちろんであるが、男性同士でも少し親しくなると手をつないで歩くことは珍

しいことではない。

- ・道を歩く時に他人に身体が当たってもどちらも気にしない。
- ・韓国では握手文化が定着している。
- ・国際空港や人の集まる場所では、家族や知人に久しぶりに会った時や別れる時に、抱き合って喜び、寂しさ・悲しさを表す韓国人を見ることがある。
- ・韓国人は親しくなると、物心ともに共有したいと願う。(自他の区別をしたがらない)

韓国では町の通りや学校内で男同士、女同士で手をつないで歩く韓国人と出会うことが多い。若い人も年取った人も、親しくなるとしっかり手を握って歩いている。これらの場面は国際交流の集まりでも同様である。韓国人の多くは親しくなると、すぐに手をとって歩きたがる。日本人の目から見ると嘘のように感じるであろう。この習慣に慣れていない日本人が韓国人に手を握られてぎこちない心境で歩いている姿を見かけることもある。これはある研究者の論では相手と会話をする時の快適空間距離が両国では違うことも一因としてあげているが、どうもそれとは違うようである。<sup>ii</sup> 韓国人が人と触れ合うのは、親しい人とは距離感を縮めることによって居場所を共有したいと願うからであろう。

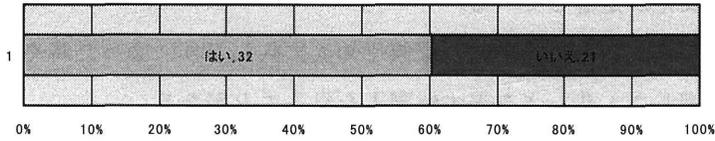
もう一つ、自分と他人の所持品についての考え方が日韓では大きく異なって見えることがある。韓国人の多くは相手と親しくなると、「親しき仲には礼儀なし」的な振舞いが自然に発生する。それは「友なら許される」はずのことであり、親友間では「あなたの物は私の物、私の物はあなたの物」の感覚が必要なのである。これはつまり、自分の領域をはみ出して相手の領域に踏み込む考え方である。しかし、「親しき仲にも礼儀あり」の意識が強い日本人には、韓国人のこの意識はなんとも受け入れ難いのである。

韓国人は友人関係やビジネス、そのほか、なにごとにおいても自分の領域を広げたいと日頃から願っており、しばしば自分の領域を超えて他人の領域に入っていくのである。これは他人の領域への侵害とは概念を異にしており、自分の領域を他人の領域と重ね合わせることを意味している。しかしながら、お互いの領域を越えて交わる部分が必ずしも双方で一致せずそのために感情的にぶつかる場面も多い。韓国人は感情のままに行動することが多く、それが原因で口喧嘩くらいはどこでも頻繁に起こる。しかし、その場合でもお互いの主張をはっきりしているだけに誤解が生まれることは少ない。また、遠慮なく本音をぶつけ合うので後にシコリが残る場合もあるにはあるが、飲み会や食事会などの機会をもち、互いにもつれ合った感情をほぐし合うのである。多くの場合は「雨降って地固まる」(비 온 뒤에 땅이 굳어진다) のことわざ通り、喧嘩をした間柄だからこそ腹を割って語り合える友人として後々良い関係が築かれる例も多い。何と玄妙なことである。

次は、「割り勘」についての日韓の解釈の違いを見てみよう。

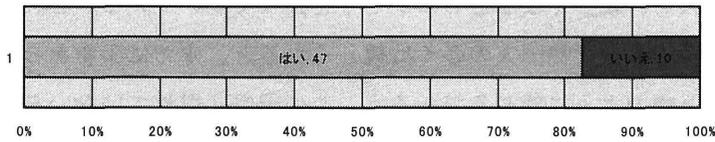
(日本人の場合)

⑤割り勘の習慣が定着している。→端数まできっちり計算する。



(韓国人の場合)

⑤目上の人や金のある人が支払うか、多く負担する。→割り勘の場合は大雑把。



「割り勘」の習慣については、日本人と韓国人の意識に大きな差がある。韓国からの留学生が日本人の先輩に誘われて飲み会に参加した後で、割り勘だと聞いてとまどったという話は意外と多い。割り勘をめぐるのは、日韓双方にしばしば誤解が生じることもある。

日本社会における割り勘の習慣は、自分の分は自分で支払うことは相手に迷惑を掛けないことであり、貸し借りを残さないという主旨に基づいている。<sup>iii</sup>

これに比べて韓国社会では、飲食代はお金持ち又は地位が高い人や年上の人が支払うものだと考えられている。その点、自分の立場を一段と高めたいと思う人などは習慣に逆らって支払うこともある。しかし、より一般的な習慣は、韓国人としては毎回きっちり計算し合って済ませようとする割り勘文化が、他人行儀のようでどうしても馴染まないということである。せっかく一緒に食事をした時の仲間意識や親しい雰囲気は阻害されてしまうと考えるからである。

同輩同士の場合には、韓国でも割り勘がないわけではないが通常は誰かがいったんその場を支払い、次回はまた誰か他の人がまとめて払うようになっている。その内に誰にも払う順番が回ってくるようになるので皆あまり気にしないのである。そこでは払う金額に多少の違いが生じることになるが、そのアバウトな感覚こそ彼ら仲間が大切にしているものなのである。

ところで、ことわざの中に日本の「指を惜しんで掌を失う」と同じ意をもつ韓国のことわざ「한푼 아끼다 백냥 잃는다」(一文惜しみて百兩失う)があり、金銭に対する日韓の考え方には差はないようである。

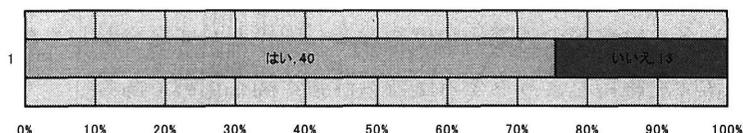
近年、韓国でも若い人を中心に「各自負担」という言い方で割り勘意識が浸透しつつある。それでもきっちり端数まで勘定し合うことは嫌う。韓国では飲食店のレジカウンターで、飲食代金の支払いで争い合っている光景がしばしば見られる。その場合、ここは自分が払うと言い張っているのである。

日本人と韓国人が一緒に飲食店で交流会をするときは、お互いの文化的側面を少し理解しておけば誤解を生じることはないであろう。

次は、見知らぬ人に対する対応姿勢を比較したものである。

(日本人の場合)

⑥見知らぬ人にも笑顔で接し、親切。

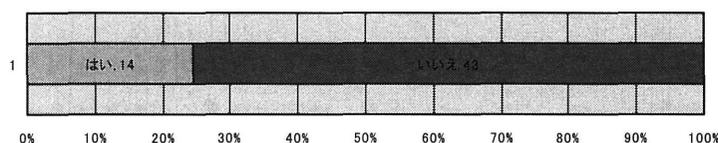


日本人は見知らぬ人に対しても大変親切であることは間違いない。韓国人をはじめ、外国人が日本に来て最初に感動するのは日本人のすばらしい笑顔と親切さである。実際、外国人には意外に感じられるほどである。この笑顔と親切さの理由はなんだろうか？ここに“和”の精神がうかがえる。

この最初の親切心は、相手に対する純粋な気配りから始まる。そして、徐々に何気ない会話の中に相手の言動が次第にわかってくるようになる。そして、それによっていったいどんな考え方の人なのかを知るための情報収集する時間となっているのである。親切と笑顔で優しく接し、相手が不愉快にならないよう注意を払いながら、だんだんと“和”を形成する準備ができていくのである。そのようにしながら、だんだんと自分との関わりの中で“和”が形成されるのを期待するのである。

(韓国人の場合)

⑥見知らぬ人には不親切で無愛想。



⑥の設問に対する韓国人のアンケート調査の結果は筆者の予想に反し意外なものになっている。世代差・時代の変化があるからであろうか。これは今後さらに追跡調査が必要かもしれない。初めて来日した多くの韓国人は、必ずといっていいほど日本人の親切さに驚嘆と憧憬の念を込めてまるで一目惚れでもしたかのように話題のトップにするほどである。親切心のような心に対する格付けは難しいけれども、そんな話題を耳にする度に筆者自身が韓国に帰ったときなどに実感する韓国人の不親切な言動と照らし合わせてみると、その落差は大きいと感じる。

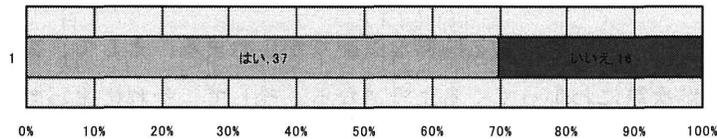
韓国人の場合は、自分との関わりがない他人には関心を持たないのが一般的である。なぜなら、親切にする意味がないと思うからである。親切心や気配りを施しても相手はどうせ自分とは関係がないのでその場限りの縁であると見限ってしまうからである。

ところが、韓国人も場合によっては逆の反応を示すことがある。その場合とは、相手が自分とのかかわりが持てると自分で判断した場合である。かかわりが持てると判断する理由は、韓国人には機会があれば自分の領域を拡げたいとの願望を持っているからで、その機会をつくらうとする気持ちの表れなのである。ただし、まったく別の意味から外国人に親切に対応する人が増えていることも事実である。その理由は、外国人と親しくなりたいといったあこがれに近いものもあるが、多くは韓国の国際的地位を意識し国民として恥ずかしくない振舞いをする事で自分のプライドを維持しようとする気持ちが強く働くためである。

次は、日本のお年寄りは控えめで、韓国のお年寄りは威張っているように感じられる、この差はなぜなのか考えてみたい。

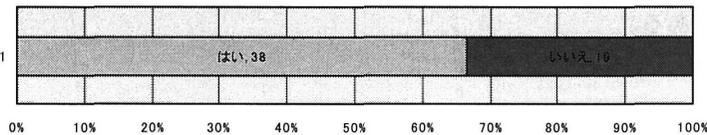
(日本人の場合)

⑦お年寄りが若者に威張らない。→若者に対しても敬意を表する人が多い。



(韓国人の場合)

⑦お年寄りが若者に威張る。(社会通念) →若者より自分が偉いと思う人が多い。



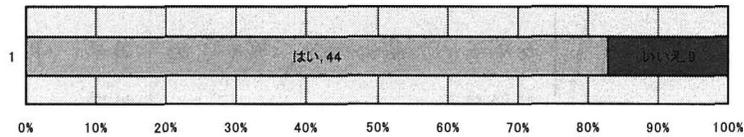
日本では、お年寄りが丁寧なことばで若者に深々と頭を下げてお礼を言うことがある。この光景にほとんどの韓国人はびっくりしてしまう。韓国では多くのお年寄りが自分は偉い人間であると本当に思っているのが若者がこれに異議をさしはさむようなことはできない。韓国では年上を敬う儒教社会の観念が染み渡っているのが、若者がお年寄りを粗末に扱うようなことは決してない。もし、そのようなことが実際にあったときは、すぐに周りの人からひどいお叱りを食らうはずである。

韓国人からすると、日本人のお年寄りの礼儀正しさに感心する反面、ひょっとしたら日本のお年寄りは若者から粗末にされているのではないだろうか、といったような疑問が頭をよぎるに違いない。

次は、他人とはいかなる場合にも迷惑がかからないようにする日本人と、自分中心で多少の迷惑は当然と考える韓国人の意識の違いを比べてみよう。

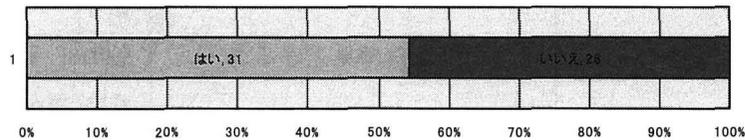
(日本人の場合)

⑧協動的で他人への迷惑に敏感。→自分が目立たないように振舞う。



(韓国人の場合)

⑧自己中心的で他人の迷惑に鈍感。→自分が目立つように振舞う。



日本人は自分の領域をはみ出して行動することは他人の迷惑になるものと判断している。人はそれぞれ自分の領域を持っていて、お互いが干渉しないようにして暮らすことを暗黙の了解にしている。

日本の村社会の伝統的な制裁である村八分<sup>iv</sup> の考え方にもこれが窺える。

これとは逆に韓国人は、他人よりも自分を優先させる面が強いので、結果としてもめごとが多い。もめごとは最終的には優劣がはっきりした時点で一方のどちらかが割り切った行動に移ることによって、もめごとは自然に消えてなくなるのが一般的である。

## 2. 日常生活に関連したことわざの比較

前節では「日韓言動比較表」④～⑧に関連付けて日本人と韓国人の言動の中に潜む精神文化について分析してきた。ここでは日韓で類似することわざを比較してみることによって似て非なる精神文化の違いを感じ取ってほしい。

なお、韓国のことわざについては前記同様に、韓国的な雰囲気をもそのまま感じられるようにあえてできるだけ直訳に徹することにした。

日常生活に関連したことわざ比較表

日本のことわざ	韓国のことわざ	
始めが大事	始めれば半分	시작이 반이다
男は度胸 女は愛嬌	男は度胸、女は節概=節義と氣概	남자는 배짱, 여자는 절개

男やもめにはウジが湧き、女やもめには花が咲く	男やもめは虱が三斗、女やもめは米が三斗	홀아비는 이가 서말, 과부는 쌀이 서말
同病相憐れむ <sup>1</sup>	女やもめの胸の内は、男やもめが分かる	과부 사정은 홀애비가 안다
夫婦の喧嘩は犬も食わない	夫婦の喧嘩は包丁での水割り	부부싸움 칼로 물 베기
女心と秋の空	男心は秋の空 <sup>2</sup>	남자마음은 가을 하늘과 같다
及ばぬ鯉（恋）の滝登り	及ばぬ木ならば見上げるな	오르지 못할 나무 쳐다보 지도 말아라
蓼食う虫も好き好き	自分の目に合った眼鏡	제 눈 에 안경
鉄は熱いうちに打て	牛の角は一気に抜け	쇠 뿔은 단김에 빼라
可愛い子には旅をさせよ	大事な子には鞭をもう一発打つ	귀한 자식 매 한대 더 때 린다
	憎い子に餅をもう一つやる <sup>3</sup>	미운 놈 떡 하나 더 준다
一姫二太郎	長女は家財の元手 <sup>4</sup>	첫 딸은 살림 밑천이다
親も親なら子も子なり	その父あつてのその息子	그 애비에 그 아들
瓜の蔓に茄子は生えぬ	大豆を植えたら大豆の芽を吹き、小豆を植えたら小豆の芽を吹く	콩 심은 데 콩 나고 팥 심은 데 팥 난다

<sup>1</sup> 日本の場合、男女間のことを問題にしているのではないので対応にやや不一致感がある。

<sup>2</sup> ここでの「秋空」の解釈のポイントは日本と異なっている。日本の「秋空」は変わり易いことを指しているのに対して韓国の場合は真っ青で変わらないという概念があり「変わらない心」を指している。日韓では秋の気候の感じ方に差がある。ただ、日本でも関東と関西では「秋」の天候の感じ方に差があるようである（金田一春彦著『ことばの博物誌』（1966）p.195）。

<sup>3</sup> 憎い子を持ち出して、可愛い子であるからこそ厳しくしつけるということを逆説的に説いている。

<sup>4</sup> この場合、日韓で用いる意味は一致していない。韓国の場合は、古くからの儒教的概念から長男が生まれることを望んでいるために、女の子が生まれた場合の“慰め言葉”だった。

姑が憎けりゃ夫まで憎い	姑が憎くて犬の横腹を蹴る	시어머니 미워서 개 배때 기 찬다
親が憎ければ子まで憎い	嫁が憎けりゃ孫まで憎い	며느리가 미우면 손자까 지 밟다
蟻の思いも天にのぼる	至誠天に通ず	지성(至誠)이면 감천(感天) 이라
一寸の虫にも5分の魂	ミミズも踏まれるとぴくっとす る	지렁이도 밟으면 꿈틀 한다
いろはの「い」の字も書けぬ	鎌があっても鎌の字(ㇿ)も知 らない	낫 놓고 ㇿ 자도 모른다
他人のりんごはより赤い (・隣の芝生は青い)	人の餅がもっと大きく見える	남의 떡이 더 커 보인다
尾っぽを振る犬は叩かれず	笑顔に唾は吐けぬ	웃는 얼굴에 침 뱉으랴
飼い犬に手を噛まれる	頼みの斧に足の甲をつく	믿는 도끼에 발등 찍힌다
塩にて淵を埋めるとし	底無しの甕に水を入れるごとき	밀 빠진 독에 물 붓기
食(じき)に友を忘る	食道が捕盗庁(盗人を捕らえる 官庁)	목구멍이 포도청
空きっ腹にまずい物無し	空きっ腹がおかずだ	시장이 반찬이다
知らぬが仏	知らぬが薬、知るは病	모르는 게 약이요, 아는게 병
人のふり見てわがふり直せ	糞をつけた犬が、糞をつけた犬 を見てなじる	똥 묻은 개가 겨 묻은 개보고 나무란다
血は水より濃い	腕は内側に曲がる	팔은 안으로 굽는다
鎚(つち)より柄が太い	お腹より臍が大きい	배보다 배꼽이 크다
角を矯めて牛を殺す	鼠を捕ろうとして甕を割る	쥐 잡으려다 독 깬다

獲らぬ狸の皮算用	キムチの汁から飲む <sup>5</sup>	김치국부터 마신다
測り難きは人心	深い川の中は計れても、浅い人の心は計れない	열길 물속은 알아도 한길 사람속은 모른다
鳩を憎みて豆を作らぬ	蛆を恐れて醤油を仕込めないことがあろうか	구더기 무서워서 장 못 담글까
豚に真珠（・猫に小判）	犬の頭に冠	개 대가리에 왕관
仏の光より金の光	金さえあれば鬼とも仲良し	돈만 있으면 귀신도 사귀다
源清ければすなわち流れ清し	上の水が澄んでこそ下の水も澄む	웃 물이 맑아야 아랫물이 맑다
指を惜しんで掌を失う	一文惜しみて百兩失う	한 푼 아끼다 백냥 잃는다
閑古鳥が鳴く	ハエを飛ばしている	파리를 날린다
風が吹けば桶屋が儲かる	鯨の喧嘩にえびの背が裂ける	고래 싸움에 새우 등 터진다
羹（あつもの）に懲りて膾（なます）を吹く	銅龜見て驚いた胸、釜の蓋見て驚く	자라 보고 놀란 가슴 솥뚜껑 보고 놀란다
口三味線に乗せる。口車に乗せる	飛行機に乗せる	비행기 태운다
山椒は小粒でもびりりと辛い	小粒の唐辛子が辛い	작은 고추가 맵다
花より団子	金剛山の景色も食後	금강산도 식후경
石橋を叩いて渡る	わかる道も聞いて行け	아는 길도 물어가라

<sup>5</sup> 韓国では正月や秋夕（お盆）、誕生日など慶事があるときは色々な種類のお餅を作って家族や客をもてなす。そして、餅と一緒に出されるものに水キムチがある。これは餅で喉を詰らせないようにすることと、甘い餅を食べた後の胃のもたれをなくす効用があるからである。このことわざは、餅を出されるだろうと先取りして、餅が出された時のために先に水キムチの汁を飲んでおくという意味であり、自分に都合の良い解釈をする人を指して使われる。

寝床を見ながら脚を伸ばせ<sup>6</sup>누울 자리 봐 가며 발  
뻗어라

韓国人を解くキーワードは「儒教思想」のほかに、「年上を敬う」、「女性蔑視」、「半島国家」、「戦争」、「兵役の義務」、「私教育熱」、「気が短い」、「人間関係が濃密」、「族譜（家系図）」、「夫婦別姓」、「正統性」、「宗親会」<sup>v</sup>、「縁故主義（血縁、地縁、学縁）」、「地域感情」、「情」などがある。

韓国社会は「儒教」の概念を根幹にし、人間間を結ぶ「情」という接着剤によって交わりあう社会である。韓国人は根強い地域感情、地縁、血縁、学縁からくる利己主義を最大限に活用して大きなエネルギーを発揮する。たとえば、「腕は内側に曲がる（「팔은 안으로 굽는다」）は、日本の「血は水より濃い」と同義である。

また、学校の門前を頻繁に行き交う母親を指して、「チマッパラム」（スカートの風）と呼んでいる。韓国では久しい以前から、チマッパラムが学校教育の公正さに影響を与えかねない行動だと非難されており、その意気込みは「牛の角でも一気に抜けだ」（쇠 뿔도 단 김에 뺄었다）とすさまじい。日本のことわざの「鉄は熱いうちに打て」と同義ではあるが、結果が分かっているなら何ごとでも早くやっつけてしまえという意味で、性急さにおいて似て非なるものがある。

現代の韓国社会は儒教文化の残滓として見知らぬ他人には冷たくする文化が生まれた。それは、自分が所属していない対象や人物は関心外というわけである。

なお、韓国人の人間関係は、儒教社会で上下意識がはっきりして身動きできないほどの垂直の関係と、血縁、地縁、学縁など同類仲間によって形成される水平的関係の両面から成り立っている。そして、縁故主義が職場をはじめ社会のあらゆる面で見受けられる。しかし、このような社会の仕組みは厳しい現実社会で生き抜く韓国人に未知なる可能性を与えてくれるもので社会の潤滑油となっている。

韓国人はいつも自分が強くありたいと願うあまりに、仮に近隣の関係者が自分より優秀であったとしてもそれを認めようとしないことが多い。特に身近な親族や隣人に対してその意識が強く、次のことわざはそんな韓国人を自虐的に表現したものであるといえよう。

「隣の従兄弟が田畑を買うと腹が痛くなる」（이웃사촌이 땅을 사면 배가 아프다）

韓国人にとって、氏名は先祖の由来を担うもので姓は祖先からの遺産、名は2文字でそのうち1文字は先祖からの世代数を表す。名付けにおいては陰陽五行、画数、相克<sup>vi</sup>などの概念があり、今でも厳格に守られている家庭が多い。そこで、我慢できない悪口の一つとして「お前

<sup>6</sup> 状況判断を適格にしてから行動することの誠め。

の苗字を変えろ」という言葉が飛び出したりする。それがつかみ合いに発展することもある。

正統性やルーツを尊ぶ韓国では、族譜（家系図）に対する思い入れがとても強い。多くの韓国人にとっては、我慢できない言葉の一つが「族譜にも載っていない」（족보에도 없다）というものである。

韓国人の苗字にはそれぞれ本貫（始祖の発祥地）があり、本貫を同じくする親戚を中心として形成される「宗親会」がある。同族系列の宗親会が開かれると、親族間の問題、族譜、お墓のことなどが話し合われる。また、序列を重んじる韓国では儒教の伝統から、「年上と年下」、「目上と目下」の意識が強く上下の呼称を間違えると人間関係までが崩れる。友人間では水平関係とともに垂直的な上下関係をも考慮することが望ましい。

「寝床を見ながら脚を伸ばせ」（누울 자리 봐 가며 발을 뻗어라）

韓国人は人を評価するときに、よく「情」に関することばで表現することが多い。日本でも「情」のことばは使われるが、その概念は韓国人の「情」とは感覚が違っている。韓国（人）の「情」について韓国で出版されている国語辞典には以下のような内容が記されている。

- ①見たり聞いたりしながら感じる心の様子。（情がある。情がない。情が湧く。情が離れる。）
- ②人間関係が深まるにつれて増してくる親近感。（多情ハダ：情が深く、思いやりがあること。）
- ③相手のことを心配し、汲み取る深い心。（情ダプタ：むつまじく親しみが湧く。やさしい。）
- ④男女間の愛情。
- ⑤心理学で心を形成する二つの要素、即ち、理知的な要素と感動的な要素を成す部分。

（『東亜新韓国語辞典』参照）

「情」に関連した「多情」は両国共有のことばである。「多情な人」といえば日本語の語感はどこらかというマイナスイメージに写る場合もあるが、韓国語では人間的に優しいという意味であり、人間関係が深まるにつれて増す親近感を持つことのできる人のことである。

#### IV. おわりに

本稿では、日韓両国人の日常の言語習慣や行動様式を比較して掲げた「日韓言動比較表」に基づいて日本人と韓国人の精神文化にスポットを当てて考察してきた。また、情緒や感性の違いを知る上で有効と思われる、日本と韓国で使われている類似したことわざを併記してその手がかかりとした。

「日韓言動比較表」の①～⑧の日本人の用例はそのほとんどが「和」を根源にしており、「和」を重んじて「自分の領域」をはみ出さないように細心の注意をしながら言動を戒めて暮らす文化であるということが確認できた。「和」は、「穏やか、のどか」であり、「和気藹々」、「温和」、

「柔和」などの柔らかい語意の持つイメージがある。日本人の精神文化の基調を成す「和」の概念は、聖徳太子の十七条憲法の第一条に、「一曰・以和為貴。<sup>vii</sup> 無忤為宗、人皆有黨。(下略)」とあり、「和を以って尊しと為す」と掲げられて以来、国民の精神文化の基本になってきているものである。その意味からも「和」は、「大和国」日本人の精神文化の基底を成す概念であることに疑いはなからう。

そして、これら日本人の言動のイメージに対応させてみた韓国人の場合には、どちらかといううと「情」を根源にした言動様式が感じられる。

控えめな振舞いが多い日本人は、日本人独特の「和」の文化について理解が乏しく感情のままストレートに振舞うことの多い韓国人に対して、「礼儀知らず」とみてしまうこともある。それは「日韓言動比較表」の①～⑧の韓国人の場合をみると「和」を乱すことにつながる内容が多いことから納得できよう。逆に、日本人の場合の①～⑧に韓国人の「情」の概念を当てはめてみると、かなりの距離感が感じられよう。このように、言動様式に表れる日韓の精神文化の差異をはっきり認識することが言語を媒体とするコミュニケーションの深まりにおいては必須であろう。

---

注：

- i 「和」と「情」の概念については、李元馥（2001）が既にふれているが、本稿では、「和」と「情」の概念が実際の言動様式の中でどのように使われているかに絞って考察した。
- ii 安定的対話距離は日本では平均九十センチ、韓国では六十センチである。（水野俊平著『韓国の若者を知りたい』（2003） p. 151）
- iii 割り勘文化については日本古来の習慣であるというよりも、戦後、個人主義や個人尊重が深化する中で定着してきたものと考えられる。そのため、世代間・男女間においていくらか格差が認められよう。
- iv （「八分」は「排斥する」の意「撥無」か、または葬式と火事の場合の二分だけ制裁を許す意という）江戸時代から村落で行われた私罰の慣習で村の規約に違反した者を、全村が申し合わせて絶交すること。（久松潜一監修『新潮国語辞典』より）
- v 苗字や本慣（一族の始祖に当たる人が生まれた故郷）を同じくする親戚の集まり。
- vi ①二つの間に心が互いに和合することができず、常に衝突しあうこと。②五行説において、金は木を、木は土を、土は水を、水は火を、火は金をそれぞれ打ち勝つことをさす。↔相生。（相生→五行の運行において、金からは水が、水からは木が、木からは火が、火からは土が、土からは金が生じることをさす。（李熙昇編著『한국어대사전（韓国語大辞典）』（民衆書林）より）

- vii 礼記、儒行に「礼之以和為尊」、論語、学而に「礼之用、和為貴」が長く出典とされていたが、最近滝川政次郎氏により、資治通鑑、建武元年条に「凡使人以和為貴」とあることが知られるにいたった。しかし、思想的には仏教の和合の精神によるものと考えられる。(『聖徳太子集 日本思想体系2』p. 12、(岩波書店) より)

#### 参考文献：

- 李御寧『「縮み」志向の日本人』学生社 (1982)
- 李元復『コリア驚いた！韓国から見たニッポン』朝日出版社 (2001)
- 李元復『コミック韓国』朝日出版社 (2002)
- 金田一晴彦著『言葉の博物誌』文芸春秋 (1966)
- 小林孝行 編『変貌する現代韓国社会』世界思想社 (2000)
- 池東旭『韓国の族閥・軍閥・財閥』中公新書 (1997)
- 池秉吉『속담 맛보기』(諺を味わう) 코담데오出版 (韓国、2001)
- 鄭鍾辰『한국의 속담 맛 보기』(韓国の諺の用例辞典) 太学社 (韓国、1993)
- 東郷吉男 (1997)『ちょっと古風な日本語辞典』東京洞出版
- 樋口清之『語源ものしり辞典』大和出版 (1993)
- 水野俊平『韓国の若者を知りたい』岩波ジュニア新書 (2003)
- 宮腰賢『現代に生きる故事ことわざ辞典』旺文社 (1983)
- ヤン Cholウ『겨래의 슬기·속담』(民俗の知恵・諺) 教学社 (韓国、1988)
- 李熙昇編著『국어대사전 (国語大辞典)』民衆書林 (韓国、1996)
- 大阪外国語大学朝鮮語研究室 編『朝鮮語大辞典』角川書店 (1986)
- 金田一春彦・池田弥三郎 編『学研国語大辞典』学習研究社 (1980)
- 『日本語大辞典』講談社 (1989)

#### (附録：アンケート)

アンケート調査の対象は、日本人 53 人と韓国人 57 人。日本人は社会人 23 人 (山口県長門市教育委員会主催、2006 年の公開講座「韓国文化及び韓国語」受講者) と大学生 30 人 (山口県立大学在学学生)、韓国人は社会人 19 人 (韓国ソウル市江西区禾谷洞住人) と大学生 38 人 (ソウル市所在の徳聖女子大学在学学生)。

(日本人用)

ご自分の考え方やご意見をお聞かせくだされば幸いです。

(はい/いいえ、またそう思われる理由などについて簡単に書き添えてください。)

日本人のイメージ	
①遠慮して自分の意見をはっきり言わない →考えが伝わってこない	①はい                      ②いいえ コメント：
②本音と建前の使い分けが多く本心を計りかねる	①はい                      ②いいえ コメント：
③儀礼的な言い方が多く、相槌を多用する →「すみません」「おかげさまで」「どうも」を 度々使う	①はい                      ②いいえ コメント：
④親しい友人間でも相手の領域に入らない →人間関係が淡白	①はい                      ②いいえ コメント：
⑤割り勘の習慣が定着している →端数まできっちり計算	①はい                      ②いいえ コメント：
⑥見知らぬ人にも笑顔で接し、親切	①はい                      ②いいえ コメント：
⑦お年寄りが若者に威張らない →若者に対しても敬意を表する人が多い	①はい                      ②いいえ コメント：
⑧協調的で他人への迷惑に敏感 →自分が目立たないように振舞う	①はい                      ②いいえ コメント：

どうもありがとうございました。

(韓国人用の日本語訳文)

ご自分の考え方やご意見をお聞かせくだされば幸いです。

(はい/いいえ、またそう思われる理由などについて簡単に書き添えてください。)

韓国人のイメージ	
①遠慮なく自分の意見をはっきり言う →自己主張が多い	①はい                      ②いいえ コメント：
②率直な言い方をし、本心が伝わる	①はい                      ②いいえ コメント：
③儀礼的な言い方が少なく、相槌を多用しない →謝礼のことばは一度だけ言う	①はい                      ②いいえ コメント：
④親しい友人間では物・心を共有する →人間関係が濃厚	①はい                      ②いいえ コメント：
⑤目上の人や金のある人が支払うか、多く負担する →割り勘の場合は大雑把	①はい                      ②いいえ コメント：
⑥見知らぬ人には不親切で無愛想	①はい                      ②いいえ コメント：
⑦お年寄りが若者に威張る（社会通念） →若者より自分が偉いと思う人が多い	①はい                      ②いいえ コメント：
⑧自己中心的で他人の迷惑に鈍感 →自分が目立つように振舞う	①はい                      ②いいえ コメント：

どうもありがとうございました。

(韓國人用)

평소의 자신의 사고방식이나 의견을 기술해 주시기 바랍니다.

(예 / 아니요, 또는 그렇게 생각하는 이유 등에 대해 써 주시면 감사하겠습니다)

한국인의 이미지	
①타인에 대해 서슴치 않고 자기 의견을 말한다 →자기주장을 확실히 함	①예                      ②아니요 코멘트 :
②대개 솔직담백하며 본심 그대로 행동한다	①예                      ②아니요 코멘트 :
③의례적인 인사치렛말이 적고 수궁하는 표시를 다용하지 않는다→사례나 사죄는 한번 말함	①예                      ②아니요 코멘트 :
④친구끼리는 마음적·물질적 양면으로 공유한다 →인간 관계가 농후함	①예                      ②아니요 코멘트 :
⑤식사비의 계산은 손윗사람이나 돈이 있는 사람이 치루거나, 많이 부담한다. →각자부담을 할 경우 예는 대충 대충 함	①예                      ②아니요 코멘트 :
⑥모르는 사람에 대해서는 불친절하며 무뎠 하게 대한다	①예                      ②아니요 코멘트 :
⑦노인네들은 젊은이보다 기세가 당당하다 (사회적 통념) →젊은이보다 노인 자신이 더 훌륭하다고 생각한다	①예                      ②아니요 코멘트 :
⑧자기 중심적이며 남에게 폐가 된다는 의식에 둔감하다.→남의 눈에 띄게 행동한다	①예                      ②아니요 코멘트 :

대단히 감사합니다.